

第1章 「交流スペース管理運営計画」の策定にあたって

施設のねらい

「交流スペース」は未来につながる新しいタイプの図書館として、図書館利用の新しい形を提示する。駅前立地を活かし、図書館を利用したことのない人にきっかけ作りとなる体験を提供し、居住地域の公共図書館や県立図書館本体部の利用につなぐ。また、既存の図書館ユーザーに対しては、新たな活用スタイルを提示し、利用の深化を図る。



導入機能

未来につながる新しいタイプの図書館を実現するため、「学ぶ」「交流する」「創造する」の3つの機能を導入し、活動が循環・継続されるよう整備を行う。

学ぶ～多彩な情報との出会いの場～

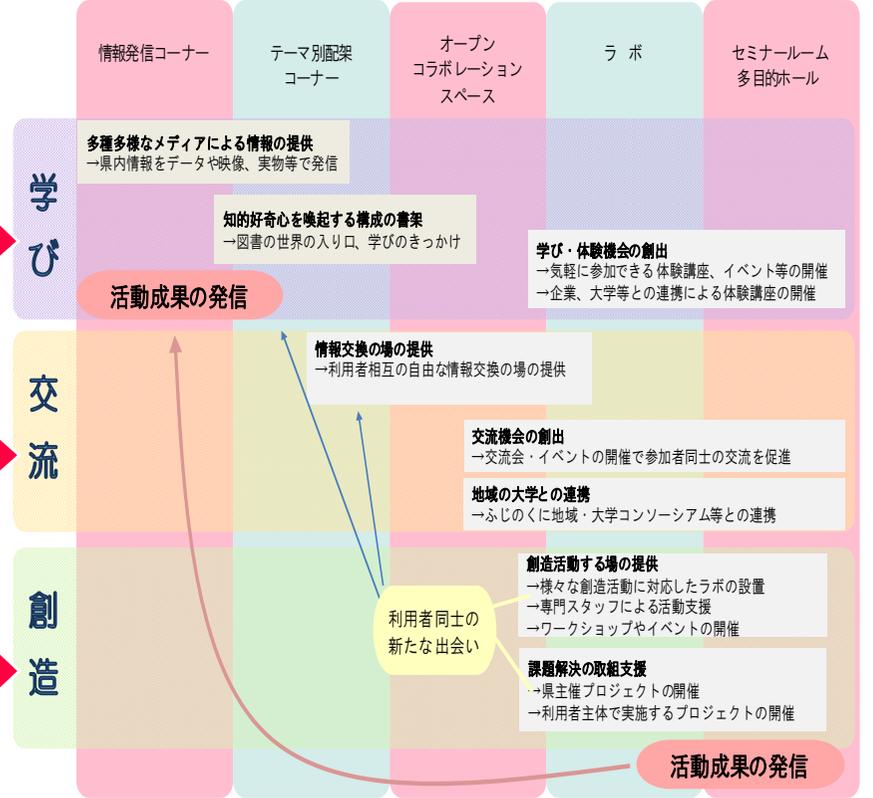
- 多種多様なメディアを活用した情報提供
○知的好奇心を刺激するテーマを設定し、幅広いジャンルの本を配架
○気軽に参加できる体験講座・イベントの実施

交流する～人と人との出会いの場～

- 利用者相互の自由な情報交換の場の提供
○交流を活性化させるイベント・事業の実施
○安心して過ごせる居心地の良いサードプレイスの提供

創造する～新たな情報や文化の創造・発信の場～

- 様々な創造活動に対応したラボの設置
○課題解決に向けたプロジェクトの実施
○創造活動成果の発表・発信



メインターゲットとする利用者像

<新たなメインターゲット>

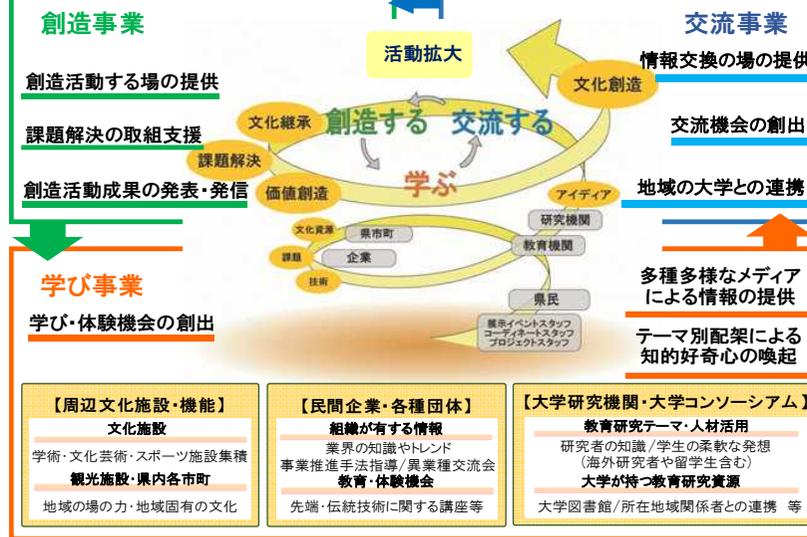
- ①若者世代(学生)
②働き盛り世代(子育て世代)

※メインターゲットを中心に、あらゆる世代に利用される施設を目指す

第2章 事業計画

事業構成

3つの機能は、各機能がつながりを持って、「学びを深め、知性の交流を生み、創造活動につながる」流れを生み出すことで、知識や経験の多寡にかかわらず、関心を持つ誰もが主体的に活動していく環境をつくることができる。これを踏まえ「学び事業」「交流事業」「創造事業」を実施する。



第3章 備品計画

活用する備品等

3つの機能を満たすため、その活動を促進する効果的な内装・設備・備品とする必要がある。

内装・設備設計及び備品調達等は、県民の活動を支援する運営事業者の意向が反映できるようなスケジュールや仕組みとなるよう配慮する。

第4章 運営計画

基本方針

- 常に魅力的で柔軟な運営を行う
●運営の持続可能性を高める
●県民の主体性を大切にする

運営手法

交流スペースは、連携体制の構築やプロジェクトの実施、高度なオンライン技術やコミュニケーションデザインによるWebサービスの運営など、多岐に渡る業務を効果的に実施することのできる実行能力が求められるため、民間のノウハウを活用した効率的・効果的な運営を目指す。